んなものなのかを知ることが大事だと思います。病気のしんどさは、その人にしか分かりませんが、その病気について少しでも知った上で、実際に病気にかかっている人のことを思うことで、だいぶ違うと思うんですよね。そういう優しさを増やす機会をまだまだいただければと思います。

市長　普段から医療の最前線で働かれている看護師さんも、精神的、身体的ストレスが多いのではないかと思います。府中市民病院ではメンタルヘルスケアについて、どういった取り組みをされていますか。

池庄司　職員がいきいき働いていないと、本当の意味の患者さまの満足度は上がらないというのが、看護管理者としての私のモットーですので、全看護職員・看護補助者と面談を行いました。その中で、仕事に対するモチベーションのみならず、職場での人間関係、家庭内での悩みなどを、心を打ち明けて話をしてくれました。そういった場を作ることで、職員間のコミュニケーションが良くなり、それが離職対策にも繋がるなど、良い方向に動きつつあります。

住み続けたいと思えるまちを目指して

市長　先日、広島大学の木内先生が、病院の将来像を考えるにあたり大切なのは、病院の将来もさることながら、まちの将来だとおっしゃっていました。市民の皆さんが住み続けたいと思える、また他の市町からも行ってみたいと思われるようなまちを目指していきたいと考えております。そのために、地域が病院を守る、また病院に地域を守っていただくと言われていますように、行政と病院がしっかり連携をとり、取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

一人一人の人生に寄り添い全人的医療を目指す

府中市民病院　多田院長

今問題になっている病気だけではなく、他に隠れた病気はないか、将来こういう病気になるのではないかなど、生活背景を含めて十分心配りができるような医療者になりたいと思っています。

病院としては、患者さまの情報を、できるだけ分かりやすい形で確認できるデータベースを作成しているところです。今何が問題なのか、今後何が問題になってくるのかを抽出しやすくし、全人的医療につなげていきたいと考えています。

選ばれる病院づくりのため看護の質を高めていきたい

府中市民病院　池庄司プロジェクトマネージャー

府中市民病院を受診してよかった、他の方にもぜひ紹介したいと思っていただけるような、安心・安全で療養環境もいい、選ばれる病院を目指していきたいと思います。看護師それぞれの学習意欲の向上や、お互いが切磋琢磨できるような環境づくりに努め、全体の看護技術を向上させていけるよう、私自身も頑張りたいと思います。

帰るときには気持ちが緩んで笑顔が浮かぶ、そんな病院へ

府中市立湯が丘病院　若木院長

心の問題は、治るのに時間がかかります。受診しやすいように、接遇の良さ、スタッフ・患者同士の人間関係の良さが、院内にあふれている病院でありたいですね。当院は、医者、精神保健福祉士や臨床心理士などのコメディカル、そして事務員の1人に至るまでが適切で、奥に優しさを含めた対応ができると思います。診察だけでなく、コメディカルによる仕事、訪問看護などの体制をさらに充実させて頑張っていこうと思います。

病院と関わることで、元気になったと感じていただきたい

府中北市民病院　中井院長

僕も、受診してよかったと思える病院を目指していきたいと思います。病気で苦しいことも多いかと思いますが、スタッフの笑顔や対応などで、少しでも元気になっていただきたいです。また、患者さまに限らず、地域の皆さんと積極的に接して、病院と関わることで変わった、元気になったと感じていただけるような病院にしていきたいと考えております。